

やることで、できるだけ風通しがよくて、活気のある PTA にするための手段だっていうことに言ったほうがいいかもしれません。

聞いた話によると以前は、親と先生と一緒に山に登ったり、一緒に陶芸教室をしたりと、していた時代があったと聞いたことがあるんですけど、今、本当に先生方は忙しくて、そういう時間をつくることができません。それならそれで、今の時代なりに、どうしたら親と先生とか、風通し良くリラックスした状態で、いろんな話しができるようになるには、それを考えていかなければならないと思うんですね。

この文化活動って、まさに成人委員会が担っている部分だと思うんですけども。うちの子どもが通っていた中学では年に1回、草取りの日があって、草取りの日は成人委員会の主催で、親も学校に出かけて行って、先生たちと一緒に土を運んで、土を花壇に入れたり、花の種を植えたり、とかしました。その作業が終わると、校庭にブルーシートを敷いて、ちょっとだけお茶を飲んで、ちょっとだけお話しをして帰る、という本当に簡単で何の準備もいらない、何の準備もいらないって、先生たちのほうが準備していたのかもしれませんが、本当に簡単な会だったんですけど、作業をすることで先生たちの普段と違う素顔が見えることができたり、普段知らない、先生たちの「あっ、こんな会話しているんだね」というのが聞けたりとかして、結構いい会だったなあ、と思っています。

三つ目「実際活動の場」

これは学習をして考えた子どもの幸せのために、実際に保護者と先生が活動するというものです。

最近校外パトロールとかしている学校がとか、老朽化した校舎の壁を保護者たちが集まって塗ったりとか、そういう直接子どもの幸せと結びついた活動を、しているところもあります。

そうやって、直接子どもの幸せに結びついていくために、これが上手く回っていると、PTA の存在意義って言うものが、全部の保護者に伝わりやすいんじゃないかな、と思います。

4つ目「教育運動の場」

ここまで活動を深めていくというのは、なかなか難しいと思うんですけども、今までお話しした、1番、2番、3番が上手く回ると次の課題、学校施設をこうしてほしい、とか、先生の定員もっと増やして欲しいよね、とか、地域の交通安全であそこに信号つけて欲しいよね、とか、そういう問題にもぶつかってくると思います。

それを教育運動という形で展開するのも、PTA の大事な役割なんですけれども、それはなかなか自分の学校だけでは出来ないことなので、そういう時こそね、さっきの井出さんが言っていた、市 P 連を利用していただけたらいいんじゃないかなと思います。かならず、一緒に考えてくれる学校が他にも見つかると思います。

以上、4つが PTA の大事な役割なんですけれども、ここであらためて確認しておきたいことなんですけれども、この下を書いてあることです。

それは PTA というものが、あくまでも任意団体だということです。なんか最初の役員決めのところに出てみると、一見 PTA って全員加入しなくちゃいけないと思われがちなんですけれども、先程の PTA の誕生の経緯から言ってみても、決してそんなことはありません。今、アメリカでは加入率が50%以下、という学校もあるそうです。つまり保護

者の半分しか入っていないPTAもあるそうです。

じゃ、それじゃだめなのかというと、そういうわけではなくて、本当にこの活動をしなくてはいけないよね、と思っている人たちが、活動するのがもとのPTAの形なので、本当はやろうという人たちが、やるのがPTA、それが本当は原則なんですね。

だから、みんな辞めちゃったら困るんですけども、協力的じゃない、っていう人がいるっていうことで、ヤキモキするくらいなら、あの、とりあえず、やるきのある人ではじめようよ。人数少ないけど、やる気のある人でやろうよっていう感じでPTAを考えたほうが、むしろ、いいんじゃないかなあ、と思ったりもしています。

以上が、PTAの役割という話しなんですけど、成人委員会はさっき言ったように2番目、文化活動の場、で、もう一つは1番の学習の場、このあたりを担うのが、成人委員会だと考えていただけたらいいんじゃないかなと思います。

ただ、学校によってPTAのやりかたって違うので、うちの学校はこういうこともやっている。という話もあると思うんですけども、それはまた、後半の情報交換のところ、お互いに質問していただけたらいいかなと思います。

ここまではちょっと固い話しなんで、リラックスしていただいて、2番に進みたいと思います。

2番は「PTA役員心得十箇条」とあるんですけど、これはこんなものが世の中のどこかにあるわけではなくて、わたしが勝手に作ったものです。

わたしが、十二年間PTAをやりながら、こういうことを気をつけながらPTAをやったら、うまく回るんじゃないかなあ、と思って考えたものなので、参考程度に聞いていただけたらいいかなあ、と思っております。

成人委員会というのは、けっこう、成人委員会がやりたくてやったという人も多んじゃないかなと思うんですけども、皆さんはどうでしょうか？

この中にはもちろん。やりたくてやった方もいると思うんですけど、くじで当たっちゃった方もいるでしょうし、その後の三役決めで、またまたくじで当たって超ラッキーなことに委員長になってしまったという方もいると思います。

ま、理由はどうあれ。今年、成人に委員会をやることになり、三役を引き受けた訳ですから、やるからには1年後、もうPTAの委員なんて2度とやりたくない！というように思うよりは、「いろいろあったけどけっこう楽しかったよね。」と言えるように、発想を変えられたらいいですよ。

そのための心得というか、そんなふうに考えていただけるといいと思います。

その1です。消極派も腹を決めよう！いつまでも「やりたくなかったのに」と言わないで。

今年のリーダー研修は5月の末なので、もうスタートしてから1ヶ月くらい経っていますから、こういうことはたぶんないと思うんですけども、やりたくなかったのに、たとえば自分のお子さんが何かを引き受けてきて、家に帰ってきて、「あ～あ、こんなのやりたくなかったのになあ、」といつまでも言ったら、皆さんはお子さんになんと言うのでしょうか？